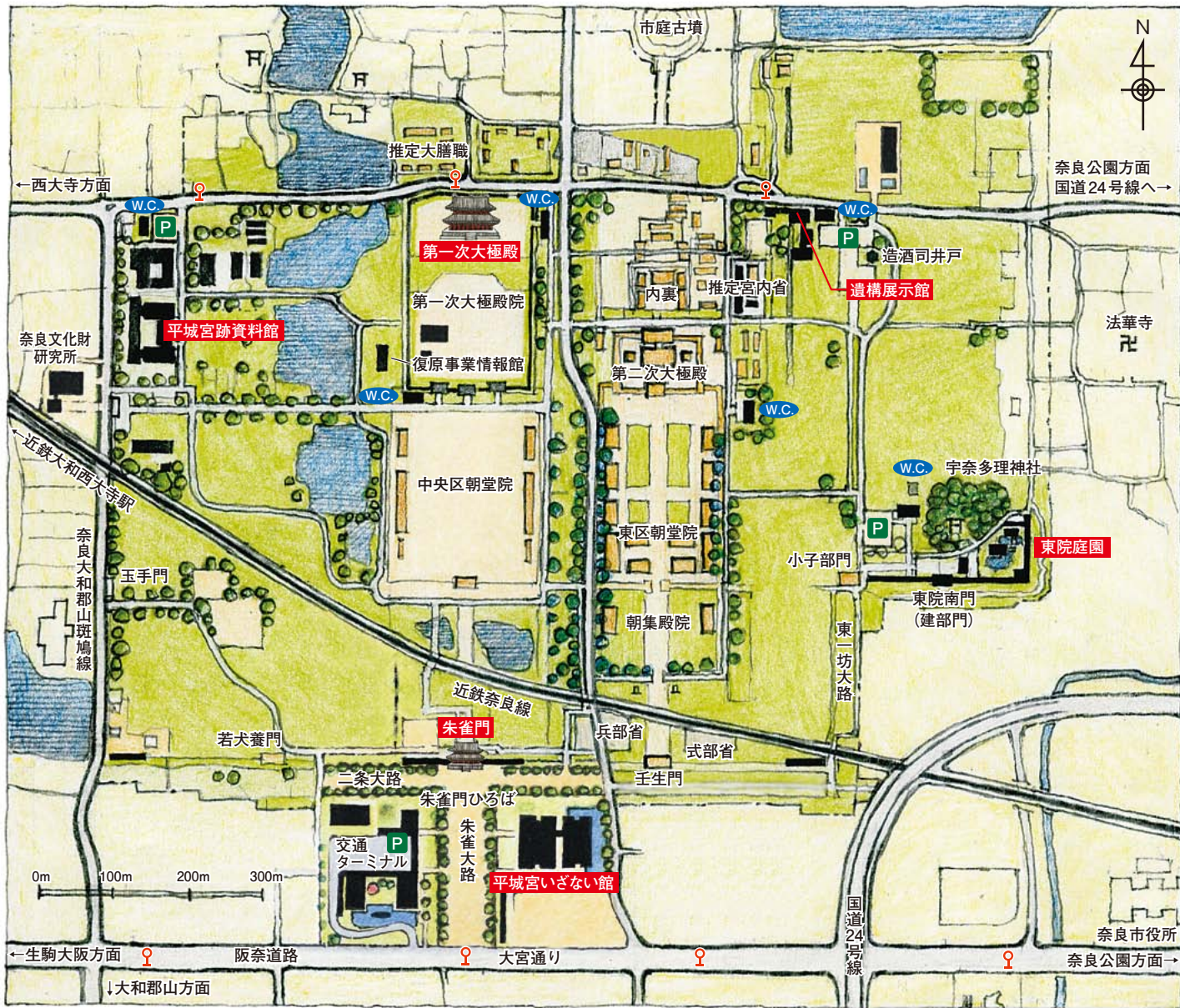


世界遺産／特別史跡

平城宮跡ガイド

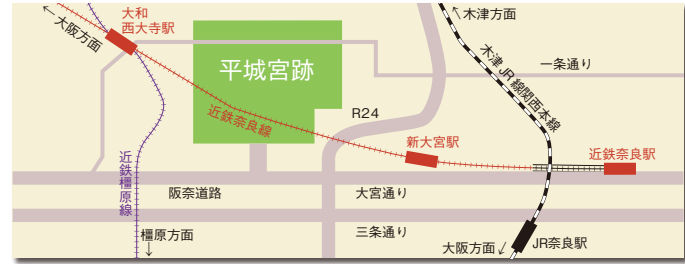
公開施設 **入場無料**

- ・平城宮跡資料館・遺構展示館・朱雀門
- ・第一次大極殿・平城宮東院庭園



協力：NPO法人平城宮跡サポートネットワーク

- 施設公開：9：00～16：30（ただし入館は16：00まで）
※奈良文化財研究所に登録のボランティア解説があります。（無料／要問い合わせ）
※駐車場は、都合により予告の上、使用制限される場合があります。
- 休館：月曜日（月曜が休日のときは翌平日）、年末年始
- お問合せ：奈良文化財研究所 広報企画係
電話 0742-30-6753
Eメール jimur@nabunken.go.jp
- ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/



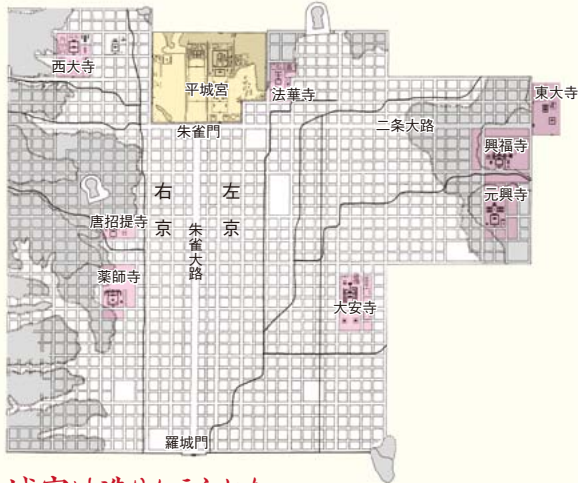
●アクセス：近鉄大和西大寺駅から東へ徒歩15～30分、近鉄・JR奈良駅から奈良交通バスで約30分

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所

■ 平城京と平城宮

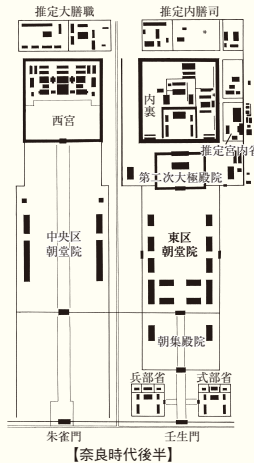
和銅3年(710)、飛鳥に近い藤原京(奈良県橿原市)から奈良盆地の北端に新しくつくられた平城京に都が移されました。

唐の長安をモデルにして設計され、南北約5km、東西約6km、都の中央北端には政治の中心となる(平城宮)が造られました。平城宮は約1km四方の広さで、大極殿や朝堂院などの宮殿のほか、天皇の住まいである内裏があり、周囲には国の役所が立ち並んでいました。



■ 平城宮は造りかえられた

平城京に都が移された710年から長岡京に都が移る784年までの75年間を奈良時代といいます。聖武天皇が740年から745年まで恭仁京や難波京などに都を移しますが、その前後で平城宮の宮殿や役所は大きく造りかえられました。



復元された大極殿は奈良時代前半のもので、奈良時代後半には大極殿は東のほうにある内裏の南に造りなおされました。これを第二次大極殿と呼んでいます。内裏やほかの多くの役所でも、奈良時代の間になんども造りかえがおこなわれます。建物が古くなったからではなく、ほかの理由があったと考えられます。

■ 朱雀門



平城京の入り口には(羅城門)があり、75m幅のメインストリートの朱雀大路を北へ3.7km 歩くと突き当たりが平城宮の正門の(朱雀門)です。平城宮の周囲は大きな築地塀で囲まれ、合計12の門がありました。朱雀門は平成10年(1998)に復元されました。朱雀門の規模は間口25m、奥行き10m、高さ22m、二重の屋根で他の門より特に立派に造られていました。

門の南にある広場は朱雀大路の一部を復元したもので、門のすぐ前を幅37mの二条大路が東西に横切っています。

■ 第一次大極殿

(大極殿)は宮殿の中でも最も重要な建物で、即位の儀式や元日の朝賀には天皇の玉座である(高御座)が置かれました。間口44m、奥行20m、屋根の高さ27mで平城宮の中でも最大の建物です。復元に際しては発掘調査のデータや現在残っている奈良時代の建物など参考に多くの専門家が研究して、平成13年(2001)から9年の歳月をかけ(平城遷都1300年)の平成22年(2010)に完成しました。



■ 第二次大極殿と内裏



天平17年(745)、聖武天皇は紫香楽宮から平城宮に戻って新たに大極殿を造りました。これが(第二次大極殿)です。この大極殿や南の朝堂の土壇が残っていて、明治時代の終わりに建築史家の関野貞が平城宮跡を発見するきっかけとなりました。また明治時代から大正時代にかけて、地元の棚田嘉十郎達が保存運動に取り組み、今日の礎を築きました。第二次大極殿の北側の植込みがある一帯は天皇の住まいである(内裏)跡です。内裏の東に復元されている檜皮葺きの建物は宮内省と推定されている役所です。

■ 東院庭園

平城宮の東に張出した部分は『続日本紀』にみえる「東院」にあたります。昭和42年(1967)、その南東隅に大きな庭園の遺跡が発見され、平成7年(1995)から10年(1998)にかけて復元されました。これが「東院庭園」です。東西80m、南北100mの敷地の中央に複雑な曲線の池がありました。称徳天皇はこの近くに「東院玉殿」を建て、宴会や儀式を催しました。現代の迎賓館にあたるものです。前期は大陸風庭園で、後期に日本風庭園に造りかえたことが分かりました。



■ 平城宮跡資料館

平城宮跡は奈良文化財研究所が昭和34年(1959)から毎年計画的に発掘調査をしています。その成果を総合的に分かりやすく展示しているのが(平城宮跡資料館)です。

役所と宮殿の内部を実物大で再現し、発掘調査の出土品を展示しています。

ミュージアムショップや休憩室もあります。



■ 遺構展示館

発掘した状態(遺構)をそのまま見ることができるのが(遺構展示館)です。3棟からなり、北棟では奈良時代に4回も建てかえられた建物の柱跡、北棟や中央棟では大型の復元模型や発掘された大きな井戸、南棟は大量の磚(レンガ)を敷きつめたためずらしい建物跡を見ることができ



ます。